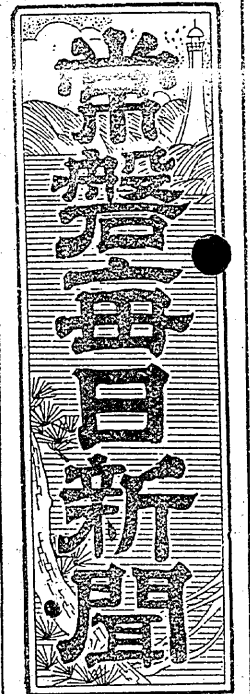


刊夕日七十二月一



定価 一部全巻 月五拾圓 郵費五圓  
廣告料 五號 十二字 日行金五拾圓  
日曜 祭日の翌日 休刊  
発行所 東京市神田區 神田 三丁目 三番 五號  
電話 六三〇〇  
印刷所 東京市神田區 神田 三丁目 三番 五號  
電話 六三〇〇

### 牢獄と蜘蛛と

こころろぎ 七

白土五郎

蜘蛛 公

よく見ると、流の隅の方に体の入る丈の穴を掘つてそこに運ぶのである。そしてそこで鳴く俺は手の掌に米粒を置き、蜘蛛を乗せると逃げやうとせず、麥を食ふては鳴く、少しも俺をおそれない。終ひには本の上にも登つて来て鳴く、ふところの中に這入つても鳴く、頭の上にも登つてゐる。夜は床の中に這入つて鳴いてくれる、鳴公は完全に俺の友になつてしまつた。如何なるものでも食には釣られる、生きとし生きるものの根本的條件は食である。生きとし生きてゐるものは食に依つて左右されるのだ。食に依つて慕ひ、食に依つて恐れ、食に依つて泣き、食に依つて笑ふ。俺は米粒によつて牢獄生活をくも公に慰められた。かふしたこころろぎ公との楽しい生活も長くつづかなかつた。愈々公が近づき大阪に送られる日は近づいた。そしてこころろぎ公と別かれる日は迫つた。

に送られるのだよ、お前と別れなければならぬ。お前と俺とは本當の親友であつた。お前によつておれはどんなに慰められたことか。おれの立つた後、此處に來き人がどんな人だか解らない。一寸するとお前を殺すかも知れない。お前の鳴くのは唯こころろぎ公を呼ぶであらう。ここでいくら鳴いても一匹の唯こころろぎ公も來ない。だからね、今日運動に出る時、お前の仲間の澤山出る菊畑に放つてやるよ。今日は別れたからウンと麥をお食へ。

動物の箱の中で、昨夕、蜘蛛公は鳴いた、昨年よりは二日早い。なつかしなあの、嬉しくなるぞ、と、彼もこころろぎ公の鳴くのを待つてゐるらしい。こころろぎ公は鳴いた、こころろぎ公は鳴いた、おれはその夜、こころろぎ公の鳴く聲を聞かふと思つて耳をすましてゐると、なまます、ジツジ、ジーと、たまらなく嬉しくなつた、早く顔を見たい、今年のこころろぎ公はどんな顔をしてゐるだらうと、五、六日過ぎると、かんらん根本から懐かしい聲が見えた、手をやると、ジツとして光澤のある黒褐色の頑丈な粘着力のある弾力性の全身に漲つてゐる、力強い彼。掴めようとする、ピンと飛躍する。その元氣、その勇しさその夜からは花畑にも、前の畑にもこころろぎ公は、夏の暑さもなき飛ばすやうにおれはこころろぎと界刑務所で親友になつたやうに、此處でも親友となつてやらうとして運動に出た時、監視の目を盗んで二匹のこころろぎ公をふところ忍ばせて持ち込み、早速こころろぎ公を食ふ。なれたらそのうち食ふだらう。ないてくれるだらうと楽しみにしてゐた。

こころろぎ公、俺はね大阪

母ミチ子病氣の處療養不相叶八拾七歳の高齡を以て一月二十四日午前三時四分永眠致候間御通知に代へ此段謹告仕候也

追て葬儀は舊曆正月を遠慮し來る二月八日(舊正月十六日)午後一時三十分自宅出棺當町長橋町性源寺に於て佛式により執行可致候

昭和十一年一月二十四日  
福島縣平町舊城跡十二

孫 青沼淡太郎  
男 青沼鋒太郎  
親戚總代 市原卯太郎  
神谷辰五郎

是非!

御融通には御用命下さい  
萬事便利な御相談に應じます

三井質店  
平四電六〇六番

お年始のお客様に

魚清のサービス

さしみと御飯 吸物おしんこ付

二十五錢  
三品 五十せん  
五品 八十せん

平二番客星通り  
魚清食堂  
電話六三三

夜間診療

胃腸病科 内科 皮膚科

花柳病科 性病科

門 專

院醫性病胃腸村松  
(番七〇一町南町平)

門 專

婦人科 産科

花柳病科

入院隨意

井坂醫院  
平町田町 電話五五九番

外科 口腔科 歯科

レントゲン科

院長 東京齒科大學士 原 精一

平町士橋通り 電話三一一番

原齒科醫院

和漆器家具は和全産

平町士橋通り 電話三三三番

# けふ縣社々頭に 赤心一票を誓ふ

## 第二次選挙肅正の狼火

第二次選挙肅正の趣旨徹底に大童の平町は廿七日拂曉より二回に亘り煙火を打上げ尙正九時にサイレンを打鳴らし縣社子歛神社に町民一般數百名參集嚴肅な肅正祈願祭を挙げた

### 祈願文

縣社子歛神社前の大前に平町選挙肅正委員長長平町長從五位勳五等青沼鋒太郎、衆議院議員選挙有権者一同謹みて白す正しき選挙は立憲政治の根幹にして百般の改新社會の淨化總て源を茲に發す、

## 選挙期間の日曜は郵便を平常通り

### 平局が対策に大童へ

平郵便局は今回の總選挙に備へる爲め廿六日から二月十六日までの日曜は郵便物を平常通り午後七時まで取扱ふが前昭和七年の總選挙には十日間に引受二十五萬七千二百通、配達六萬三千四百一通を取扱つて居るが配達員の能率増進の爲め極力一般の門標掲揚を希望して居る

## 小名濱消

### 防出初式

例出初め式は来る三十日舊

江名信用理事 江名信用組合は昨廿六日總會を開き理事の改選を行ひ石井保氏が當選した

高久信用總會 高久信用組合總會は来る廿一日午前十時から小學校に開き役員改選本年事業等を協議する

## 危 無看手踏切へ

### 看手ナシ

#### 丸に白字の警標

列車のスピードアップ並に一般交通の激増に伴つて瀕發する鐵道踏切り事故の絶對防止を圖る爲め鐵道では二月一日から常磐線磐城越東線各六ヶ所に直徑二尺の圓板へ赤地で看手ナシと白く染抜えた警標を掲示する事になつた

## 土木技手着任

土木監督所次席大森技手は藝に京都府土木部に榮轉、後任選定中であつたが本日双葉郡富岡町より長谷川留藏技手が着任した

## 青沼町長母堂

長青沼鋒太郎氏母堂ミヤ子刀自は過般來病氣療養中の處廿四日午前三時四分遂に長逝した、行年八十七、葬儀は舊正月のため二月四日茶毘に附し同月八日午後二時自宅出棺長橋町性源寺に於て告別式を執行する、刀自は舊平藩士青沼博學氏の未亡人で賢婦の譽高く高齡の身をも顧みず毎年女子青年團へ自製の雑布を多數寄附する等數々の美談の主で今回の逝去を惜まれてゐる

## 磐城民俗研究會

### 愈々本格的活動へ

#### 磐女生も協力

昨夏本邦民俗學界の泰斗柳田國男氏の遷葬祝に出席した磐城女教諭山口彌一郎、岩崎俊夫の兩氏は其後郷土民俗文化事業普及のため種々計畫中であつたが此の程前記柳田氏の弟子である大野村高木誠一氏を中心

を發表し更に毎月一回宛郷土民族資料を採集發表の豫定である

△表具見習 廿才迄 年給三十圓位  
△漁業雜役 廿四才 尋卒  
△土工夫 卅一才 尋卒  
△土工夫 廿四才 高卒  
△集金人 四十六才 高卒

## 平町人事

△新川町二一 田中武雄氏 二女モト子さん  
△胡摩澤一三一 當時杉平一七落合富司氏二女幸子さん  
△番匠町三二 當時東京市王子區上十條一四四三淵上武夫氏二男昭慶さん

## 平職業紹介所報告

△炊事婦 四十才迄 月給五圓  
△女中 卅才迄 月給五圓  
△トラック運轉手 卅才迄 月給四十圓 住宅支給  
△柏人夫 卅才迄 月給十圓  
△小店員 廿才迄 月給五圓  
△配達 十七才迄 月給四圓  
△飲食店員 廿才迄 月給五圓  
△女工 廿才迄 月給七圓  
△漁業雜役 廿五才迄 月給十圓  
△精米店員 廿才迄 月給五圓  
△梁張見習 十八才迄 給料小遣仕着

△表具見習 廿才迄 年給三十圓位  
△漁業雜役 廿四才 尋卒  
△土工夫 卅一才 尋卒  
△土工夫 廿四才 高卒  
△集金人 四十六才 高卒

## 耳鼻咽喉科専門

### 鈴木醫院

醫學士 鈴木 正男  
平町田町 (電話五八番)  
藤田女學校前  
自炊のお需めに應ず  
入院の便あり

安齊醫院  
平町田町  
電話四七五



## 靈効散 胃腸藥

を御試し下さい

新年お目出度うございます  
皆様 新年會だ忘年會だと飲み過ぎたり食ひ過ぎたりして胃腸を害されませんか。少しでも左様な徴候顯はれましたら明日と言はず... 今すぐ...  
大層能く効きます。外に三年五年と患ふ慢性胃腸病の全快した人も澤山あります。  
胃腸病、心臓病、癆、痔等も治ります。  
御望みの方には御試用として見本藥を阿康藥局で差上げます。御遠慮なく御來局下さい。他店では見本藥差上げません。是非左記へお出下さい。

## 阿康藥局

電話 四四番  
振替口座東京三〇〇五番

御子様方には小兒靈効散があります

### 雪に祟られた

## 吉例初賣り

悲鳴をあげた商店露店商  
三日、四日で漸くふり返す

恒例二日の搔き入れ時を粉雪と降りて祟られた本町の吉例大賣出しは各商店共青息吐息の惨めな収入不足を感して殊更露店商人の打撃は徹底的な致命傷を受けた有様だつたが明けて三日一日に更なる小春日和で俄然人足は昨日の降雪前の雑沓を盛り返し悲憤してゐた市内各商店並に露店商人はホッと息ある間もない戦闘開始である何處の店でも持

ち越した景品の山を聲を限りて宣傳してゐるのはむしろ宣傳よりも悲鳴に似て凄絶な福引景品の當籤を告げる「ガラッ」の音も必死の緊張味を見せ漸くにして正月らしい風景を描いてゐた

### 南町河岸通り

## モダン道路實現

從來の下水は道路ト貫流 一段と街の歡樂境は榮る

市制實現を控へて平町は着々諸般の準備を進めてゐるが之に伴ふ道路工事も主要道路の大体舗装完成を見て居り愈々本町南裏通り平館前を流れる愛谷江筋支流を暗渠にして道路を擴大する計劃を樹て十一年中に豫算七千五百圓を計上して二丁目裏通り平館前より一丁目裏側に至る延長百五十餘間の工事をなす事になつたが之が實現後は道路面から汚濁した流が姿を消し美装された道路が出現するため嬉ばれてゐる

### 肅正祈願祭

神谷村では明廿八日午後一時から同村小學校奉安殿前で選舉肅正祈願祭を行ふと

### 雪空を衝き

## 學生旗行列

一方選舉肅正強調に呼應する平町各小學校は廿七日午前九時より各學級別に擔任指導の講話があり午前十時校門出發左記路順により夫々選舉肅正歌を高唱しながら旗行列を行つた  
△第一校 校門—才穂小路—鍛冶町—南町—新川町—五丁目—本町—紺屋町—縣前—校門  
△第二校 校門—才穂小路—田町—白銀町—大工

町—五丁目—本町—紺屋町—縣前—校門  
△第三校 校門—鎌田町—立町—五丁目—本町—紺屋町—研町—材木町—堂の前—中町—大町—新川町—校門

### 自動車に追突

植田の貸切茨城縣で植田町昭和タクシーの運転手小谷津某(三)は廿五日午後四時半頃貸切を運轉して茨城縣助川町を疾走中同町齋藤青果店の雇人柴田政治(二)の自轉車に追突頭部に打撲傷を負はした

### 落磐壓死

舊正二日の廿五日午後四時頃内郷村磐城炭礦採炭夫村上余治(三)同町野忠助(三)の兩名は同礦本坑内で作業中落磐で壓死

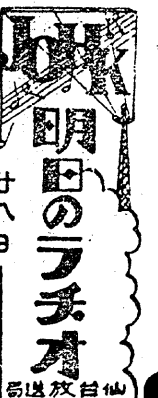
### 産婆醫師違反

渡邊村字野産婆入せん(三)は舊臘二日磐崎村字白鳥大井川孝内妻中村としのさんの出産に立會つたが産兒は翌日死亡したところ大友は醫師の診斷書を偽造し役場に死亡届を出した事發覺此の程平署に召喚され醫師法違反で取調べを取けた

### 我が子を餌に

## 前借詐欺

雇主が訴へる、内郷村大字白字三坑下八平子信正は昨年九月廿日湯本町上町木村仁吉の紹介で東京市淺草區鳥越町石川保司さん方に徴兵検査まで二



明日のラジオ

今晩は晴明日も同様

### 今晩の部

- 後六〇〇 子供の時間
- 合唱 仙臺混聲合唱團
- 後六二五 基礎英語講座
- 岡倉由三郎
- 後七三〇 講演—生物學上より見たる吾の南洋—
- 東北帝大教授畑井新喜司
- 後八〇〇 但詠 佐藤はる他
- 後八二五 哥澤 哥澤芝金他
- 後八四〇 ジャズ ラゲ
- 百五十圓の年奉公の約束
- で二男の信(一)を前借金
- 五十圓で奉公したが去
- 十日夜借金は歸郷して返済
- すると信(一)をつれ歸つたま

### 正月祝の景物

## 泥酔漢風景二題

何時の世も歴史は同じ  
ホロ酔は絶えんデスナ

内郷村大字綴雜貨商鈴木藤兵衛(三)は昨廿六日午後一時半頃泥酔して同所綴請願派出所に暴れこみ着任したばかりの要田巡查に亂暴を働けた上戸障子を破壊し平署に檢査された

好間村大字北好間某雜貨商芳に本廿七日午前二時頃泥酔漢が暴れ込み始末におへず平署に檢査したが右は耶摩郡一木林字澤口生れ當時住所不定大工高橋喜作(三)で酔のさめた今朝留置場で青くなつてゐた

前二〇一〇 幼児の時間  
童話二匹のいたづら豚  
村岡花子  
前二〇三〇 母の時間  
「女子實業教育について」  
菊池豊三郎  
後二〇五 箏曲 秋風西  
村文一 鐘ヶ岬關根佐喜  
後二〇〇 小學尋四 國  
語の時間 雪舟の話 小栗  
吉郎  
後二四〇 小學高一の時  
間 音樂鑑賞堀内敬三木  
村光雄  
後五三五 スキー講座  
「スキーの衛生化につい  
て」阿部忠一  
後六〇〇 子供の時間  
「物の始り家」佐藤功一

後六二五 青年の時間  
「徳器を成就しと宣給へ  
る聖訓について」葛西千  
秋  
後七三〇 講演「英國皇  
帝の崩御を悼み奉る」松  
平恒雄  
後七四〇 講演「上海事  
變の回顧と上海の現情」  
荒木貞亮  
後八〇〇 軍歌と吹奏樂  
海軍軍樂隊  
後八二五 ラヂオスケツ  
チ 上海異聞丸山章治福  
地梧朗  
後八五〇 聲色劇 劇仕  
立聲似顔畫安宅の珍關の  
場柳亭長樂他  
後九一〇 連續ラヂオ小  
説「雪之丞變化」守田勘彌

オヒットソングズ193  
6 コ罗纳オーケストラ他  
後九一〇 連續ラヂオ小  
説「雪之丞變化」守田勘彌  
後九三〇 時報 ニュー  
ス 明日の話題 氣象通  
報 番組豫告

明日の部  
前七〇〇 基礎ドイツ語  
講座(四)武内大造  
前七三〇 朝の修養「近  
思録」(一)高瀬武次郎  
前九〇〇 衛生メモ

他に信一を奉公させ再三  
の催促にも支拂の意志なき  
ため石川から平署へ説諭方  
願ひ出た

純益百六十圓で  
養豚から温床新築  
自給自足の小名實業

小名實業學校では過般小  
豚十頭を購入同校武教諭指  
導の下に飼育中であつたが  
食物の如きは生徒一同が毎  
朝始業前町内各所よりカキ  
集め補給する等總て自給自  
足でやつただけに成績頗る  
良く此程販賣したところ百  
六十圓の利益を擧げたので  
今度は温床を設ける事にな  
り且下工事中である

第三校の劍道大會  
既報に去る廿九日に行はれ

平町で講習會  
産組改組

縣内の漁業組合十組合は今  
年中に組織を變更産業組  
合組織とし共同購入及び加  
工場を設備して組合員の福  
利を圖ることになり縣では  
三月十三日より三日間平に  
おいて産組改組の講習をす  
ることになつた

平署演武場で  
劍道階級審査  
昨日受験者六一名  
大日本武徳會福島支部主催

た平第三小學校劍道大會の  
入賞者左の如くである  
(個人賞)千葉三好 竹村  
弘 鈴木七郎 永山一郎  
鈴木利勝 佐藤秀夫 瀨  
戸博 吉田勇次郎 三森  
健吉 大原光夫 荒木勝  
彌 大原英保 笠原弘  
寺門武彦 井上明 本阿  
彌光悦 佐藤喜代治 宮  
原誠治 山岸佐五平(團  
体賞)一等五年二組 二  
等五年一組 三等六年男





# 解瓦の謎

（海軍上） 悟道軒圓玉（作）  
丸尾至陽（書）

## 三二 奇しき因縁

長六及びおかねを調べる  
土井はおかねの申し立てを  
デツと聞いてゐたが

土「貴様の主人はもと異人の  
妾であつたと」

かね「さうでございますよ  
その異人さんが殺されまし  
てね、それから姐さんは今  
以て一人であるんでござい  
ます、時々その異人さんの  
親切であつたことを言つて  
は泣いてゐますわ」

土「出入りをしてゐる者は  
何ういふ人物だ」

かね「小間物屋に呉服店が  
参ります」

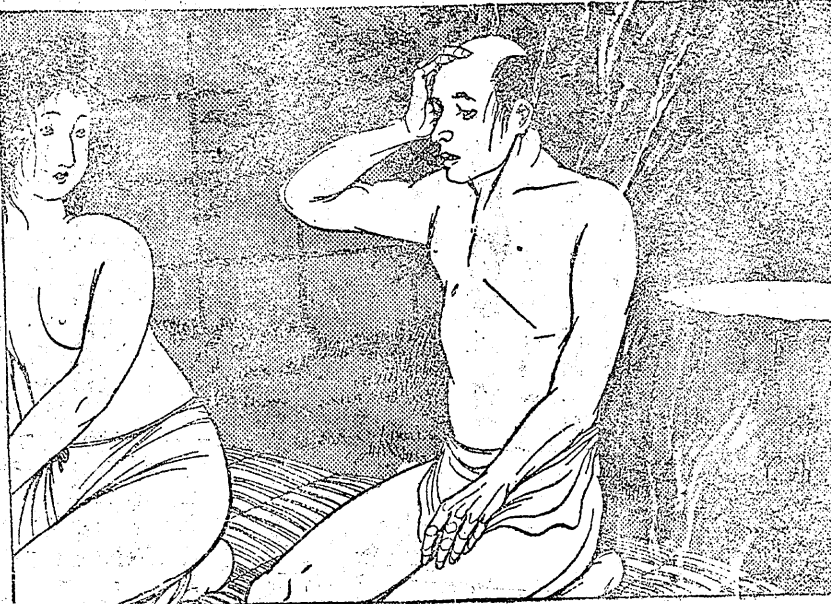
土「それは商人だがその他  
にどんな者が出入りをする  
ナ」

かね「この他に出入りになさ  
るは、もと異人さんについ  
てゐた高木さんといふ方で  
すよ、何時でも酔つて來ま  
して姐さんに冗談ばかり申  
します、氣味の悪いいやな  
人でございますよ」

土「まだ他に出入りをして  
ゐるものがあるだらう」

かね「さうでございますね  
この他に來る者はございま  
せんが、この頃姐さんの親  
類とかいふ方がとまつて居  
りました、昨夜姐さんと

二人で出て行きました」  
土「それは何ういふ人物  
だ」  
かね「二十四五になる奇麗  
な方でございます」  
土「唯奇麗な方とばかりで



は判らねえ、それは男か女  
か」

かね「男でございますよ」

土「商人か百姓か、それと  
も職人か」

かね「そんなことは私には  
判りません」

が、やがて長六に向ひ  
土「これ長六、今夜貴様は  
お花を向島まで舟で送つた  
が、その時は男も一緒だ  
な」  
長「へーさうでございます  
す」  
土「何處へ行くといつた」  
長「心願のことがあつてお  
詣りに行くから舟へ乗せて  
行けといひました」  
土「向島は何處で別れた、  
イヤ二人は何處で上つた、  
送つた上は貴様はそれを知  
つてゐる筈だ、かくさずに

う、二人の行先は見ただあ  
らう」  
長「それが判らねえ」  
土「黙れ、口止めをされた  
な、いはねばいはずるやう  
にしていはせるぞ、貴様の  
口からは聞かぬえ、皮と肉  
の間から物をいはして見せ  
る」  
長「おどかしちやアいけね  
え、かういわけなんだよ、  
三圍の土手下へ舟を着ける  
と姐さんが長六さんへ

二人の來たことは内緒にし  
ておくれとかう云つた」  
土「それでは口止めをされ  
たな」  
長「その時に金を三兩くれ  
た、大橋から向島まで二人  
を運んで行つて三兩貫ふは  
有難い、それからその金を  
勘定した、二歩金に一步銀  
に二朱金金が種々變つてゐ  
るから勘定するのに面倒だ  
その内に二人がゐなくなつ  
てしまつた。

**平屋洋品店**  
平町田町通 電話六五六番

**吸入用酸素純度 99%**

度量衡  
モノサシ  
マス  
ハカリ

器量計  
体温計  
寒暖計

秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

**關内薬局**  
電話四〇番

寫真材料一式販賣致シマス

食事・喫茶・酒場・を兼ねた

佛蘭西 御料理

**ザロソ**

平・田町 電話三五二番

ほねごころ

桑原柔道整骨院

平糞屋町 電話六八番

醫學士 吉田久雄

**吉田眼科醫院**

平糞屋町 電話六八番

醫學士 吉田久雄

**市原醫院**

平町田町 (電一一四番)

内科 小兒科 市原卯太郎  
外科 梅毒・淋病 市原三三男

入院隨時